

学校法人 加計学園
平成18年度事業報告
【岡山理科大学附属高等学校】

I. 事業の概要（全般）

入学者の減少に歯止めをかけ、生徒数を増加させるため、学校教育の原点に立ち返って、これまで以上に、生徒・保護者・地域社会から信頼される学校づくりを推進しました。

具体的には

- 1) 生徒一人ひとりの学力を向上させ、満足のいく進路実現を保証。
- 2) 礼儀正しく、品位ある生徒の育成。
- 3) 教員の意識改革及び資質向上を図り、安心して子供の教育を任せられる学校であるとの評価の確立。

学力向上と進路実現のため、授業改善に取り組むとともに、関連大学との実効性のある高大連携を推進しました。

品位ある生徒の育成のため、基本的な生活態度の確立（とくに挨拶の励行、身だしなみの指導、遅刻の防止）に努めました。

危機感をバネに、学校組織、学校運営を改革し、教職員の意識の活性化を図り、教職員集団が、それぞれの持ち味を活かしながらチームワークを発揮し、充実した教育活動を実践しました。

信頼される学校づくりを基盤として、その上に時代や社会のニーズに対応した科・コースの特色・魅力アップを実施していきました。

II. 学校の概要

1. 生徒の定員現員数

（平成18年5月1日現在）

課程・科		定員数		現員数			
		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	合計
全	普通科	420	1,230	320	359	423	1,102
日	機械科	105	335	72	88	84	244
制	電気科	35	110	14	19	24	57
課	情報科	35	110	14	33	18	65
程	計	595	1,785	420	499	549	1,468
通信制課程	(広域)普通科	600	600				432
合計		1,195	2,385	420	499	549	1,900

（単位：人）

2. 学年暦

	学年始休業	入学式	夏季休業	冬季休業	学年末休業	卒業証書授与式
岡山理科大学附属高等学校	4月1日 ～4月7日	4月9日	7月20日 ～8月31日	12月25日 ～1月7日	3月21日 ～3月31日	3月1日

Ⅲ. 各事業の概要

1. 教育活動の進捗状況

最近4、5年の志願者数減、入学者数減を受けて、抜本的な改革が必要な状況の中、科・コースにおいて、コースの名称変更、クラス分けを検討しましたが、単なる名称変更になる状況から、従来もっている科・コースの特色を発掘し、魅力を再認識することにより、教職員の意識の向上をはかり、自信を持って指導し、外部へアピールしていくことに計画を変更しました。特に進学理大コースでは関連大学の特色ある医療系の学部・学科との連携・接続・進学をアピールしました。また、志願者数の多い特別進学コースは定員増(35→60名)を行い、全体の志願者数増のけん引になるようにしました。工業機械科、電気科、情報科においては科の統合(科の廃止、新設)も含めた再生の内容を検討して、電気科と情報科の統合準備を行いました。

高大連携については附属高校と大学との相互理解を更に深め、高大連携推進委員会を中心に理大コースだけでなく、全科・全コースにおいて具体的な取り組み方法を探り、高校、大学がお互いに持ち味の生かせる内容にまとめていくようにいたしました。今年度も理大見学会を2回実施し、本校教員が実験室を訪れ、相互理解を深めました。また、理大特推入試合格者へは理大支援センター教員による入学前準備教育を実施しました。

工業においては活性化を図るため、各科とも趣向を凝らした「ものづくり」の内容を検討して、特色ある実験実習を模索し、生徒に対しては資格取得試験に積極的に挑戦させるよう指導をしていきました。

通信制課程ではいままでの進学実績をベースに特進クラスを設定して、高校卒業資格の取得だけでなく、大学進学を目的とした進学に強い通信制課程を構築するため、平成19年度に特進クラスを設け、外部教育機関と提携して、これまで以上に有名大学への進学実績をあげられるシステムを整備していきました。

また、岡山シーガルズとスポーツ交流協定を結び、女子バレーボール部を中学・高校で立ち上げ、トップレベル選手を育成することで、地域に貢献すると共に、本校の男子校イメージを脱して、女子の生徒募集を推進していきました。

特別進学コースや進学理大コース、普通コースにおいて、国公立大学をはじめとする進学実績を上げることにより、教科指導、生徒指導、進路指導において次の取り組みを実践して、生徒、保護者、地域社会に信頼される学校づくりに努めました。

教科指導においては、特に国語力向上を本校の学力増進の柱として、読書の時間を設け、優れた文章を読むことによる生徒個人の間力向上を基盤に置き、生徒一人ひとりの能力に応じた「わかる授業」「魅力ある授業」を行い、全教科の学力向上を目指しました。

生徒指導では、各教員が生徒一人ひとりの基本的な生活習慣の確立に努め、家庭との連絡を密にして、生徒、保護者の信頼を得られるよう日々努力していきました。

進路指導では、生徒一人ひとりの希望、適性に応じたきめ細やかな進路指導を行い、目標を持ち、毎日が充実した学校生活となるように努力いたしました。

また、高大連携をはじめとする「校外学修科目」受講への参加を促し、幅広い視野にたった生徒の育成にも努めました。

工業においてはいままでの実習内容に工夫をするだけでなく、新たな実習への取り組み、「魅力ある実習」によって生徒の活力を増進するだけでなく、資格取得の奨励、検定試験指導を徹底することで、生徒のやる気と自信を持たせることに努めました。

また、この度の未履修科目に関して、文部科学省からの通達に基づき、履修計画表を作成し、必要な時間数の補習授業、レポート提出を実施しました。1年、2年次生については平成19年度に必要な科目が履修できるよう、教育課程表を整備し、学則変更を行いました。

【経理】

(1) 施設関係 (総額58,927千円)

- ・半田山国有林土地取得事業 (19,250千円)
- ・本校グラウンド整備工事 (1,697千円)
- ・第2校舎1階女子トイレ改修工事 (1,660千円)
- ・笹ヶ瀬第2研修館1階硬式テニス更衣場間仕切り工事 (662千円)
- ・本校新グラウンド防球ネット設置工事 (14,935千円)
- ・横井上ジョギングコース設置工事 (3,800千円)
- ・御津国際交流会館改修工事 (16,200千円)
- ・笹ヶ瀬キャンパス連絡道路法面復旧工事を実施しました。(392千円)
- ・笹ヶ瀬グラウンド法面整備工事を実施しました。(331千円)

(2) 環境整備関係 (総額7,281千円)

- ・第7校舎1階教室内及び外壁塗装工事 (3,250千円)
- ・研修館4階柔道場畳入れ替え整備 (2,396千円)
- ・第7校舎西屋外トイレ及び第12校舎3階トイレ改修工事 (835千円)
- ・相撲場土俵整備工事 (800千円)

(3) 設備関係 (総額9,235千円)

- ・情報デザインの実習用パソコン22台 (2,578千円) 特色設備補助
- ・実習用二足歩行ロボット4台 (551千円)
- ・バドミントン可動式ポール3組 (510千円)
- ・図書 (1,499千円) 等設備の充実に努めました。

入学者数・卒業者数等は下表のとおりです。

入学者数一覧 (平成18年5月1日現在)

	入学者	留学者	
		留学者	社会人
全日制課程	420		
通信制課程	83		

(単位：人)

卒業者数等一覧

	卒業 者 ・ 修了 者	退 学 者	除 籍 者	休 学 者	留 年 者
全日制課程	545	20	3	1	4
通信制課程	167	46	3	6	

(単位：人)

2. 生徒の募集・広報

今年度は一昨年、昨年と続いた「オープンスクールの参加者は増えたが、志願者は減少」の反省を念頭に、参加した中学生が本校を必ず受験してもらえようオープンスクールの内容を検討し、7月22日1回目のオープンスクールでは参加者が925名と多いこともあり、20～25名を1組みとして班分けし、特進の公開授業、図書館、工業の実習場、体育館の部活動など順番に案内する形をとり、好評を得ました。9月30日2回目は部活動を中心に見学・体験の企画に変更したこともあってか、320名と若干少なかったものの、参加者は満足している様子でした。10月28日3回目は従来形の体験学習や実験・実習、入試対策講座、相談コーナーを実施し、540名の参加者に本校の良さをアピールしました。

入試説明会は例年通り、各会場で実施、中学校への全教員による一斉訪問も年2回、例年通り実施しました、これに加えて、昨年一部行った特別進学コース教員による塾訪問を早期に実施、工業においても独自のリーフレットを作成して工業教員による中学校訪問の実施など、各科・コースによる独自の取り組みも行いました。

3. 進学・就職活動状況

一昨年、昨年同様に早い時期からの進路目標確立のため、学年別・進路先別にガイダンス、講演会を計画、また各科・コースにおいても生徒、保護者対象に進路説明会を実施して、生徒の進路意識を高めると同時に生徒一人ひとりに適した進学・就職先を指導しました。

また、昨年同様に有名難関大学の指定校獲得のため、可能な限り大学訪問を行い、立命館大、関西大など有名大学をはじめ、昨年より30校多い、189大学から指定校の通知を受けました。就職先ではより有名、優良企業の求人確保のため、企業訪問を実施しました。結果、昨年度より138社多い892社からの求人をいただきました。

4. 財務関係

主な収入及び支出

(単位：千円)

年 度 科 目	17年度決算額	18年度決算額
学 納 金 収 入	1,122,371	970,287
補 助 金 収 入	466,860	461,242
そ の 他 収 入	69,686	106,429
帰 属 収 入 合 計	1,658,917	1,537,958
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 234,777	△ 45,221
消 費 収 入 の 部 合 計	1,424,140	1,492,737
人 件 費	1,306,193	1,260,589
教 育 研 究 経 費	278,017	239,847
管 理 経 費	153,160	154,302
そ の 他 支 出	66,356	62,177
消 費 支 出 の 部 合 計	1,803,726	1,716,915

○収支改善対策の具体的取組と効果

平成18年度全日制生徒数は昨年に続き206名減少し、1,468名となり大幅な減収が予想されるため、平成19年度から入試広報部などの機構の見直し、平成18年10月19日通知により役職の任期制を平成19年度から導入、人員削減などによる、単なる人件費の削減だけでなく、将来の安定した財政状況の現状・人員構成を念頭に、より効果的な給与表等の見直しに取りかかりました。

また、教育研究経費、管理経費においても、昨年度同様、必要な経費を明確化して、最小限の支出に努めました。未履修問題による生徒教科書購入や科コースの特色をクローズアップするリーフレットを多く印刷したため、印刷製本費が経費増となり、予想より少額であった光熱水費を減額することで調整しました。